

新国立劇場 地域招聘オペラ公演2026

びわ湖ホール

林光作曲 オペラ「森は生きている」

全2幕<室内オーケストラ版/日本語上演・日本語字幕付>

2026年7月18日(土)・19日(日) 14:00 開演

新国立劇場中劇場

料金:一般 6,600円 青少年(24歳以下) 2,750円

2026年5月6日(水・休)前売開始



びわ湖ホール公演 (2023年)

**子どもから大人まで全世代に贈る心温まる物語『森は生きている』
この夏、びわ湖ホールの名作オペラを新国立劇場で！**

新国立劇場が全国各地のすぐれた作品を新国立劇場との共催で上演する「地域招聘公演」の2026年公演として、滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール制作の『森は生きている』を上演します。

『森は生きている』はロシアの児童文学作家マルシャークの名作をもとに、林光が日本語のテキストに作曲しました。美しい音楽と台詞で紡がれる心温まる物語を、びわ湖ホールオリジナルの室内オーケストラ版でお贈りします。

舞台見学や歌と振付のレクチャーもあり、大人も子どもも、オペラが初めての方から大好きな方まで皆さまにお楽しみいただける内容でお届けします。

*びわ湖ホール公演:オペラへの招待『森は生きている』5月9日(土)・10日(日)14:00開演 びわ湖ホール中ホール

<資料のご請求、ご取材のお問い合わせ>

新国立劇場 制作部オペラ 広報担当 高梨木綿子

Tel:03-5352-5733/Fax:03-5352-5709/E-mail: takanashi_y1307@nntt.jac.go.jp

■本公演のポイント

♪9年ぶりの開催！地域招聘オペラ公演2026 びわ湖ホール

新国立劇場では、平成17年度から現代舞台芸術に関する地域交流事業として、全国各地のすぐれた作品を新国立劇場との共催で上演する「地域招聘公演」を行ってきました。2026年は滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール制作の『森は生きている』を招聘します。びわ湖ホールは、西日本初の4面舞台を備える本格的な劇場として1998年9月に開館しました。「創造する劇場」として専属の音楽家集団「びわ湖ホール音楽アンサンブル」を擁して、特色ある自主制作公演を行い、オペラ・コンサート・演劇・ダンス・古典芸能など多彩なジャンルの公演を実施しています。特にオペラに関しては、<びわ湖ホール プロデュースオペラ>、<びわ湖ホール オペラへの招待>シリーズでクオリティの高い自主公演を制作し、国内外で高い評価を得てきました。2023年にびわ湖ホール芸術監督に就任した阪哲朗による<阪 哲朗オペラセミナー>では教育的な面にも力を注ぎ、実践的な学びの場を提供しています。新国立劇場での地域招聘オペラ公演は2013年『三文オペラ』、2017年『ミカド』に続く3作目となります。



2013年『三文オペラ』公演より



2017年『ミカド』公演より

♪びわ湖ホールの名作プロダクションを新国立劇場中劇場で上演

オペラ『森は生きている』は、ロシアの児童文学作家マルシャークの名作を原作に、林光が日本語のテキストに作曲しました。美しい音楽と台詞で紡がれる心温まるこの物語を、びわ湖ホール音楽アンサンブルは2000年に室内オーケストラ版を初演以来、四半世紀にわたって大切なレパートリーとして再演を重ねてきました。今回は、新国立劇場中劇場にて、びわ湖ホール芸術監督 阪哲朗の指揮でお贈りします。

♪必見！開演前のスペシャル企画！舞台見学や演出家中村敬一による解説、歌のレクチャーも楽しもう

開演前(13時30分～13時45分)には実際の舞台へ上がって舞台美術を間近にご覧いただける舞台見学や、14:00からは演出家中村敬一による解説、そして客席を巻き込んでの歌と振付のレクチャーと、スペシャルな進行を予定しています。子どもから大人まで、オペラが初めての方からオペラファンの方まで、皆さまにお楽しみいただける内容です。

『森は生きている』 あらすじ

ある大きな国のおおみそか。むすめは、わがままな女王が気まぐれに出した“おふれ”のために、冬に咲くはずのないマツユキ草を探しに雪深い森へ出かけます。そこで出会ったのは12の月の精たち。心優しいそのむすめのために4月の精は、ほかの月の精たちに頼んで1時間だけ「時」をゆずってもらいます。すると雪は消え、目の前にはたくさんのマツユキ草が...！マツユキ草を手に入れたむすめは、12の月の精の秘密を誰にも話さないと約束し、4月の精に指輪をもらい帰ります。そしてマツユキ草を渡された女王は、廷臣たちが引きとめるにもかかわらず、自らもマツユキ草を摘むために、むすめの指輪を持って吹雪の森へと出かけていきます。そこで冬の森の厳しい寒さや大変な経験を経て、女王は大切なことを学ぶのでした。



■プロフィール

【指揮】阪 哲朗

BAN Tetsuro

京都市立芸術大学作曲専修で廣瀬量平氏らに師事。卒業後、ウィーン国立音楽大学指揮科でK.エステルライヒャー、L.ハーガー、湯浅勇治の各氏に師事。1995年ブザンソン国際指揮者コンクール優勝。96年京都府文化賞奨励賞、97年ABC国際音楽賞、2000年京都市芸術新人賞、ホテルオークラ音楽賞、04年渡邊暁雄音楽基金音楽賞、06年藤堂顕一郎音楽賞、20年京都府文化賞功労賞、24年芸術選奨文部科学大臣賞受賞。欧米での客演も数多く、主にドイツ、オーストリアなどで約40に及びオーケストラ、歌劇場に招かれ成功を収めている。

08/09年の年末年始に、ウィーン・フォルクス・オーパーで年間のハイライトとも言うべき公演の『こうもり』を指揮したことは大きな話題となった。日本では主要オーケストラ、二期会などのオペラ団体を指揮。これまでにビール市立歌劇場専属指揮者、ブランデンブルク歌劇場専属第一指揮者、ベルリン・コーミッシェ・オーパー専属指揮者、アイゼナハ歌劇場音楽総監督、山形交響楽団首席客演指揮者、レーゲンスブルク歌劇場音楽総監督を歴任。現在、びわ湖ホール芸術監督、山形交響楽団常任指揮者。新国立劇場では『ホフマン物語』『カヴァレリア・ルスティカーナ/道化師』、オペラ鑑賞教室『ドン・パスクワレ』『蝶々夫人』『ラ・ボエーム』を指揮している。



【演出】中村敬一

NAKAMURA Keiichi

武蔵野音楽大学・同大学院で声楽を専攻。卒業後、舞台監督集団「ザ・スタッフ」に所属しオペラスタッフとして活躍。以後、鈴木敬介、栗山昌良、三谷礼二、西澤敬一各氏のアシスタントとして演出の研鑽を積む。1989年より、文化庁派遣在外研修員としてウィーン国立歌劇場にてオペラ演出を研修。帰国後、二期会公演『三部作』、東京室内歌劇場公演『ヒロシマのオルフェ』、日生劇場公演『笠地蔵・北風と太陽』で演出力が絶賛され、95年第23回ジロー・オペラ新人賞を受賞。2000年3月には新国立劇場デビューとなった『沈黙』が高く評価される。01年ザ・カレッジ・オペラハウス公演『ヒロシマのオルフェ』では大阪舞台芸術奨励賞を受賞。びわ湖ホールでは、プロデュースオペラ『ばらの騎士』や『森は生きている』『魔笛～まほうのふえ～』『天国と地獄』『ルサルカ』『連隊の娘』『ミカド』『こうもり』『竹取物語』など「オペラへの招待」(旧・青少年オペラ劇場)シリーズ、『泣いた赤おに』等多くの演出を手掛け、音楽的な視点と豊かな感性による舞台づくりは広く認められている。国立音楽大学招聘教授、大阪音楽大学客員教授、洗足学園音楽大学客員教授、大阪教育大学講師、沖縄県立芸術大学講師。



びわ湖ホール声楽アンサンブル

BIWAKO HALL Vocal Ensemble

びわ湖ホール独自の創造活動の核としてびわ湖ホール開館の年の1998年3月に設立。“声楽アンサンブル”とは、ドイツ語圏の歌劇場においてオペラのソリストを担う劇場専属歌手を意味する。ソリストとしての高水準の実力だけでなく、アンサンブル、合唱の中核となり得るバランスのとれた声楽家により構成されている。びわ湖ホール自主公演への出演を主な活動としており、「びわ湖ホールオペラへの招待」や「びわ湖ホール プロデュースオペラ」などのオペラ公演やオーケストラ公演へ出演するほか、定期公演ではオペラのみならず、歌曲・宗教曲・合唱曲など多岐にわたる声楽曲に取り組んでいる。また、滋賀県内の学校を対象としたオーケストラ公演「音楽会へ出かけよう！」への出演や、学校へ赴く「学校巡回公演」や「ふれあい音楽教室」の実施など、音楽の普及活動も積極的に行っている。さらに、依頼を受けて全国各地でも多数の公演活動を行うなど、日本初の公共ホール専属オペラ歌手として多方面から注目を集めている。なお、現在までに在籍したメンバーは総勢80名におよび、専属活動期間を終了した後は“ソロ登録メンバー”として、びわ湖ホールの自主公演に出演するほか、国内外の数多くのコンサートやオペラに出演するなど幅広く活躍している。2013年第26回大津市文化賞、17年第42回滋賀県文化賞受賞。



■公演概要

タイトル	新国立劇場 地域招聘オペラ公演 2026 びわ湖ホール オペラ「森は生きている」 全2幕<室内オーケストラ版/日本語上演・日本語字幕付>																																								
作品・スタッフ	台本・作曲: 林 光 指 揮: 阪 哲朗 演 出: 中村敬一 美 術: 増田寿子 衣 裳: 半田悦子 照 明: 山本英明 音 響: 小野隆浩(びわ湖ホール) 舞台監督: 山中 舞																																								
出演	びわ湖ホール声楽アンサンブル <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;"></th> <th style="width: 25%; text-align: center;">(7月18日)</th> <th style="width: 25%; text-align: center;">(7月19日)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td><1月・総理大臣></td> <td style="text-align: center;">大野光星</td> <td style="text-align: center;">芳賀拓郎</td> </tr> <tr> <td><2月・廷臣></td> <td style="text-align: center;">古屋彰久*</td> <td style="text-align: center;">古屋彰久*</td> </tr> <tr> <td><3月・リス・オオカミ・廷臣></td> <td style="text-align: center;">宮良真子</td> <td style="text-align: center;">宮良真子</td> </tr> <tr> <td><4月・カラス・警護隊長></td> <td style="text-align: center;">奥本凱哉</td> <td style="text-align: center;">福西 仁</td> </tr> <tr> <td><5月・ウサギ・もう一人の 兵士・大使夫人・廷臣></td> <td style="text-align: center;">小田裕香</td> <td style="text-align: center;">小田裕香</td> </tr> <tr> <td><6月・もう一人の娘・リス・廷臣></td> <td style="text-align: center;">山田結香子</td> <td style="text-align: center;">山田結香子</td> </tr> <tr> <td><7月・むすめ・廷臣></td> <td style="text-align: center;">脇阪法子*</td> <td style="text-align: center;">高田瑞希</td> </tr> <tr> <td><8月・女官長・オオカミ></td> <td style="text-align: center;">柚木玲衣加</td> <td style="text-align: center;">柚木玲衣加</td> </tr> <tr> <td><9月・おっ母さん・廷臣></td> <td style="text-align: center;">森 季子*</td> <td style="text-align: center;">森 季子*</td> </tr> <tr> <td><10月・女王></td> <td style="text-align: center;">山内由香</td> <td style="text-align: center;">船越亜弥*</td> </tr> <tr> <td><11月・兵士></td> <td style="text-align: center;">有ヶ谷友輝</td> <td style="text-align: center;">有ヶ谷友輝</td> </tr> <tr> <td><12月・博士・古老></td> <td style="text-align: center;">佐貫遥斗</td> <td style="text-align: center;">市川敏雅*</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right; font-size: small;">* びわ湖ホール声楽アンサンブル・ソロ登録メンバー</p>			(7月18日)	(7月19日)	<1月・総理大臣>	大野光星	芳賀拓郎	<2月・廷臣>	古屋彰久*	古屋彰久*	<3月・リス・オオカミ・廷臣>	宮良真子	宮良真子	<4月・カラス・警護隊長>	奥本凱哉	福西 仁	<5月・ウサギ・もう一人の 兵士・大使夫人・廷臣>	小田裕香	小田裕香	<6月・もう一人の娘・リス・廷臣>	山田結香子	山田結香子	<7月・むすめ・廷臣>	脇阪法子*	高田瑞希	<8月・女官長・オオカミ>	柚木玲衣加	柚木玲衣加	<9月・おっ母さん・廷臣>	森 季子*	森 季子*	<10月・女王>	山内由香	船越亜弥*	<11月・兵士>	有ヶ谷友輝	有ヶ谷友輝	<12月・博士・古老>	佐貫遥斗	市川敏雅*
	(7月18日)	(7月19日)																																							
<1月・総理大臣>	大野光星	芳賀拓郎																																							
<2月・廷臣>	古屋彰久*	古屋彰久*																																							
<3月・リス・オオカミ・廷臣>	宮良真子	宮良真子																																							
<4月・カラス・警護隊長>	奥本凱哉	福西 仁																																							
<5月・ウサギ・もう一人の 兵士・大使夫人・廷臣>	小田裕香	小田裕香																																							
<6月・もう一人の娘・リス・廷臣>	山田結香子	山田結香子																																							
<7月・むすめ・廷臣>	脇阪法子*	高田瑞希																																							
<8月・女官長・オオカミ>	柚木玲衣加	柚木玲衣加																																							
<9月・おっ母さん・廷臣>	森 季子*	森 季子*																																							
<10月・女王>	山内由香	船越亜弥*																																							
<11月・兵士>	有ヶ谷友輝	有ヶ谷友輝																																							
<12月・博士・古老>	佐貫遥斗	市川敏雅*																																							
ピアノ	寺嶋陸也																																								
管弦楽	日本センチュリー交響楽団																																								
会場	新国立劇場 中劇場																																								
日程	2026年7月18日(土)・19日(日) 両日 14:00 開演 (13:30 開場)																																								
料金(税込)	一般 6,600円 青少年(24歳以下) 2,750円 Z席(当日のみ) 1,650円																																								
チケット取り扱い お問い合わせ	新国立劇場ボックスオフィス TEL: 03-5352-9999 びわ湖ホールチケットセンター TEL: 077-523-7136 <small>※びわ湖ホールチケットセンターでの発売は7/15(水)まで</small>																																								
ウェブサイト	https://www.nntt.jac.go.jp/opera/thetwelvemonths/																																								
主催	滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール、新国立劇場																																								
企画・制作	滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール																																								
助成	公益財団法人 ローム ミュージック ファンデーション																																								

※6歳未満のご同伴・ご入場はご遠慮ください。お子様も1人1枚チケットをお求めください。